



北陸地域の概要（2022年6月調査）

一般財団法人 北陸経済研究所
地域開発調査部 研究員 吉田聡子

景気の現状判断 行動制限のない経済活動を好感するものの、足元の値上げに警戒感

現状判断指数(DI)は前月から0.4ポイント上昇の56.3と3か月連続で50を超える。「冠婚葬祭に関連したウェアや贈答品などの商材が動いており、各種集まりの中止や延期があった前年とは違う動きが出ている。ランチ中心ではあるが、レストラン街の動きが活発化し、通常に戻りつつある(百貨店)」、「新型コロナ発生前と比較しても来客数が回復しており、特にファミリー層が大幅に回復している。これに伴い、飲食店やエンターテインメント関係の利用が増加している(その他小売[ショッピングセンター])」と明るい声が目立つ。その中で懸念材料は各種値上げの影響で、「住宅価格は上昇中で止まる気配はないが、客の動きは安定している。住宅価格は今後まだ上昇すると考える客が多く、少しでも安い時期に購入しようと考えている(住宅販売会社)」という動きが一部あるものの、大勢は「商品価格の改定があり、買上点数が大きく減少している(スーパー)」と厳しい状況が窺える。

景気の先行き判断 物価高、コスト高が不安材料となり先行きDI値は2か月連続で下落

先行き判断指数(DI)は2.6ポイント下落し45.9となった。家計動向では「人の動きは感じるが、物価高でぜいたくを控えるという声を聞いている。当店は元々単価が高い店舗のため、苦戦を見込んでいる(高級レストラン)」、「7月から値上げする商品が多く、更なる買い控えを予想している。値上げして売れなければ値段を下げざるを得ず、最終的なしわ寄せは小売店にくる(商店街)」と物価高の影響を指摘する。他方、企業動向でも「オートバイ用部品の受注が引き続き堅調なものの、資源価格の高騰が企業業績を押し下げている。生産しても利益が出ないにもかかわらず、直ちに価格転嫁するのが難しい状況である(一般機械器具製造業)」、「今年の春に販売価格の値上げを実施したが材料費の上昇が収益を圧迫し続けており、更なる値上げに踏み切ることになりそうな状況である。売上が維持できるかどうかは鍵になる(食料品製造業)」と想定以上に進むコスト高に対応を苦慮している。

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

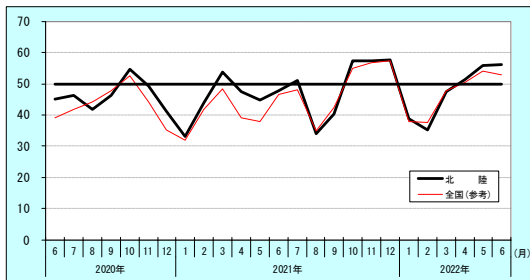
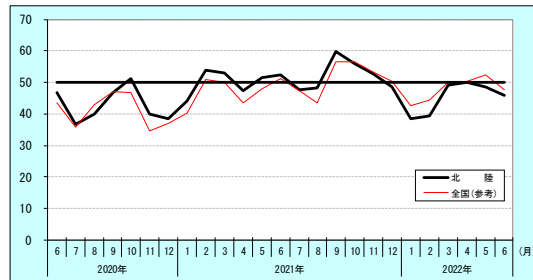


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



●6月のアンケート内容

調査期間：2022年6月25～30日

調査対象：合計100名（うち回答者90名）

- (内訳) ・家計動向関連
- ・企業動向関連
- ・雇用関連

●景気の判断指数(DI)の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

※ 詳細は2022年7月26日発行の「北陸経済研究2022年8月号」をご覧ください。